

# 生活の変化期 ～昭和30年(1955)秋から昭和40年(1965)頃まで～

日本が高度経済成長に突入し、雇用も増え生活も豊かになり始めた時代、農業よりも会社勤めの方が安定して高収入が得られた・・。

入植から10年が経った頃は、作物の収穫も順調になっていた。「神社がなくても祭りはできる！」と収穫の終わった晩秋に感謝祭を行うようになった。親たちも必死に子ども達を喜ばせようと計画したそうである。



昭和34年(通学風景)  
子ども達の服装も大分良くなってきた。



昭和34年(1959)  
フラフープが流行った頃には買ってやれた。

温泉旅行(駅は藤崎にあった頃の新津田沼駅・昭和36年7月に藤崎台駅と変更され、新津田沼は現在の方へ移転した)



—昭和43年廃線—

船橋市も昭和35年(1960)に前原団地、翌年高根台団地と大規模団地が誕生した。そして、習志野台団地建設も確定し農地が売れるようになり、生活が大分楽になった。



—ここは、現在の北習志野駅から高根木戸駅へ向かう途中の場所—



昭和39年(1964)に撮影された今の習志野台地域。当時は広大な農地が広がっていた。

昭和30年代になると、入植者も勤めに出る人が多くなった。就職時期を迎えた若者も就農せずに会社などへ就職するようになっていった。



↑  
習志野駅と高根木戸駅



北習志野駅はまだなかったので  
通勤通学はどちらかを利用した。



新しい道路や店が出来て、畑の周辺景色も変わり始めた。  
(後方は高根台団地)